

## 100年安心が早くも不安に

新緑の色増す、すがすがしい季節となりました。昔から「緑色は目にいい」とよく言われますが、果たしてどうか？一応調べてみました。ある調査によると、眼科的には根拠がなく、緑すなわち遠くの山や外の樹木を見ると精神的に落ち着く癒し効果があるという内面的な働きと、遠くを見ることによって、目の水晶体に負担がかからないのでそう言われているようです。パソコンの画面上の緑色は発色させて作った色で、むしろ目に負担がかかるそうです。結論的には緑色ではなく、「遠くの自然の植物(緑)」をボーッと見るのが目に良いといえます。

ところで、ゴールデンウィーク前に突如襲ってきたメキシコ発の新型インフルエンザ騒ぎ。鳥インフルエンザや以前にはSARS(重症急性呼吸器症候群)というものが海外から「輸入」されました。これらは新興感染症というもので、島国である日本においても、国際化社会で頻繁に海外から人や物が出入りする世の中です。検疫などで万全の体制をとっていても、感染症には潜伏期間というものがあるので、水際で食い止めるのはなかなか難しい面もあります。定期的に襲ってくる感染症の猛威に、人間の力の及ばない自然の力の恐ろしさを改めて感じました。

さて、上場企業の3月決算の発表がピークを迎え、軒並み「減収減益」「〇〇年ぶり〇〇億円の赤字」・・・のオンパレードです。昨年のこの時期には、「増収増益」「史上最高益更新」など、好決算の発表が相次いだのは対照的で、改めて「100年に一度の経済危機」を実感します。感染症のみならず、経済も海外からの金融危機の「輸入」で混乱しています。

政府の追加経済対策では15兆円もの巨額の公的資金が投入される予定です。これは消費税に換算すると年6%に相当する財政規模です。確かに今は危機的な状況ですので、あらゆる政策を総動員するという趣旨は理解できますが、この負担は結果的に国民が将来の消費税などの増税で負担することになります。単純計算ではありますが、仮に3年後に現在の消費税率5%を7%に上げたとしても、今回の対策費用で6%分借金していますので、増税後3年間は今回の借金の返済で終わってしまうということになります。

厚生労働省は、実質経済成長率が今後長期にわたってマイナス1%前後で推移すれば、2031年(平成43年)には、現在144兆円ある公的年金の積立金が枯渇し、制度が破綻するとの試算結果を発表しました。試算では、物価上昇率、名目賃金上昇率、積立金の名目運用利回りが、今後それぞれ過去10年間の実績値の平均(-0.2%、-0.7%、1.5%)のまま推移し、実質経済成長率が-1.2%の状態が続くと想定しての結果だそうです。

確かに試算の結果はそうなるでしょうが、このような報道に対して国民がどのような反応を示すでしょうか？ 私なりに分類してみると、①今は経済的に余裕あるけど、年金は当てにならないから、出来るだけ節約し、今から貯蓄して老後に備えないといけないなあ。②老後のことは心配だが、貯蓄する余裕がない。しかし節約はしないとけないなあ。③将来のことはわからん、何とかなるよ。④明日は明日の風が吹く、今が楽しければそれでよい。⑤その他。皆さんは何番に分類されるでしょうか。私が思うに、懸命な日本人的感覚で言えば、ほとんどの方が①か②のような感想をお持ちのように思います。③④のような無関心又はその場しのぎ的な感覚の方は恐らく少数派ではないでしょうか。

いずれにしても、①のような今余裕のある方でさえもお金を使わない、定額給付金や経済対策も一過性で持続的な効果がないとなると、国の借金だけが増加することになります。政府はいかに国民の不安を解消し、安心できる環境をつくるか、が一番大事な仕事ではないかと常々思っています。入院している重病患者に、「早く直そうね」「退院したら過酷な労働が待っているからね！」と言っているようなもので、直る病気も治らないような、将来の負担増加(消費税の増税)の布石を作っているような気がします。

「100年安心！」とつい数年前に大改正された今の年金制度ですが、「100年に一度の経済危機」のさなかに早くも制度破綻の懸念。この時期にあえて不安をあおるのではなく、どうすれば不安がなく希望を持てるのか、その道筋を作る政策を期待します。